



広報部
広報グループ
経済学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

生命保険業界を志望し、当初は生命保険会社を受けていましたが、途中で協会の存在を知り、一企業ではできない様々な角度から業界全体、ひいては消費者・社会に貢献できるところに魅力を感じました。

一 現在の担当業務

広報部では、報道対応・ホームページ管理・社会貢献活動を担当しています。

具体的には、報道対応では、プレスリリース、会見の運営、記者からの照会対応などを行っています。また、ホームページ管理では、所管部門からの依頼に基づき更新作業を行っており、社会貢献活動(※)に関しては、介護福祉士・保育士を目指す学生に対する奨学金制度や保育園・放課後児童クラブに対する助成活動などを運営しています。

(※)<https://www.seiho.or.jp/activity/social/>

一 仕事のやりがい

広報部というと、一見華やかそうに思えますが、一つひとつの仕事は地味なものが多いです。また、世の中の動きや協会の最新の状況も把握しておく必要があり、情報収集だけでも一苦労です。

しかしながら、協会の対外PRを一手に担う部署です。一つひとつの仕事を積み重ねていき、様々なステークホルダーに対して情報発信・社会貢献活動などを行うことで、生命保険業界に対する理解促進、協会のプレゼンス向上を図ることができるところに、やりがいを感じています。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

現在は個人・社会ともに多様性の時代であり、転職することも一般的になってきましたが、それでも、やはり最初の会社選びは大切だと思います。

そのためには、どの企業・業界で働きたいかも重要ですが、あらためて自分が将来どのような人生を送りたいかを少し考えてみると、新たな企業に興味がわいてくるかもしれません。

その結果、当協会を選んでいただけたなら、大変嬉しいです。ぜひ、自分なりの軸を持って、がんばってください。

ある日のワンショット

「子育てと仕事の両立支援に対する助成活動」の募集開始に向けて、部内のミーティング中。募集要項等を確認しています。





業務教育部
業務教育グループ

経済学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

前職の生命保険会社では、販売業績管理や営業人事、消費者保護に向けた取組み、商品開発など、さまざまな業務に携わりましたが、自分の経験をより一層業界のために活かしたいと考え、業界全体を俯瞰して考えることができる当協会に入社しました。

一 現在の担当業務

生命保険商品をお客様にお届けするためには、適切な教育を受け、試験に合格し、「生命保険募集人」としての資格を得る必要があります。私は、この生命保険募集人に求められる知識や能力を養成するための業界共通教育課程試験制度を運営しています。さらに、生命保険募集人の資格取得後も、継続してファイナンシャルプランニングサービスに関する専門知識を維持できるようにするための育成体制も運営しています。生命保険募集人が時代の変化に即した知識を習得し、お客様に安心を届けられるよう、制度の充実化に向けて日々取り組んでいます。

一 仕事のやりがい

業務教育部は、生命保険を販売する生命保険会社や保険代理店と協力しながら、物事を検討することの多い部門です。

生命保険募集人が適切に保険商品を販売するためにはどうしたらよいか、保険代理店の業務品質を向上するためにはどうしたらよいか、といった観点からさまざまな取組みを実施しています。「生命保険募集人の育成」という面で、お客様に安心して生命保険をお届けできる仕組みを構築・整備しており、業界全体に貢献している実感を得ています。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

生命保険業界に携わる人は、「誰かの人生を支える」という使命に向き合っています。

人の暮らしや人生に寄り添い、誰かの安心をつくるこの業界の仕事は、大きなやりがいがあるものです。生命保険業界に興味を持ってくださった皆さまの誠実さや思いやりは、必ず誰かの安心につながっていきますので、その自分らしさを大切にして、真摯に進んでほしいと思います。

皆さまと一緒に仕事ができることを心待ちにしながら、皆さまの将来を心から応援しています。

ある日のワンショット

業界共通教育課程試験の運営に関する外部委託先会社とのミーティング中。

ミーティングを踏まえて、試験制度の改善点を検討します。





企画部
企画グループ

商学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

入社を決め手は、「人」と「自己成長できる環境」でした。

様々なステークホルダーと関わりながら仕事ができるのは、業界団体ならではの面白さがあり、様々な「人」と関わりながら自己成長が実現できるのではないかと考え入社しました。

一 現在の担当業務

持続可能な社会の実現に向けた取組みに関する企画・立案、各種業界課題の解決に向けた行政との調整、法改正をはじめとするパブリックコメントへの意見表明対応など、生命保険業界の発展のため、幅広い業務に取り組んでいます。

特に、近年、気候変動をはじめとする環境問題は私たちの暮らしに甚大な影響をもたらしています。そうした地球規模の課題解決に向けて生命保険業界が取り組んでいることを刊行物として取りまとめ、業界内外に対して発信しています。

一 仕事のやりがい

入社時には、様々なステークホルダーと関わりながら仕事ができ、そうした仕事を通じて自己成長が実現できると考えていましたが、入社後もその印象は変わっていません。むしろ、自分が想像していたよりも業界を取り巻く環境は、より複雑でダイナミックだと感じました。

自分ひとりができる仕事の量や範囲は限られており、業界課題を解決するためには様々な「人」と力をあわせることが大切です。そうした仕事の進め方を実現するためにも、普段からステークホルダーとの関係づくりを大事にするように意識しており、いざステークホルダーの方々とともに課題解決ができたときは非常にやりがいを感じます。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

就職活動では、是非、色々な業界の会社に足を運んでみてください。世の中にはこんな仕事があるのか、といった新しい発見がたくさんあると思います。

また、自己分析を通じて自分の仕事に対する価値観や今後こういったキャリアを作っていきたいかを考えることも大切です。

そうしたことができるのは、学生時代の就職活動ならではの醍醐味です(社会人になるとそうした考える時間を作るだけでも大変になります)。なかなか上手くいかないこともあるかと思いますが、悔いの残らないよう頑張ってください。

ある日のワンショット

入社してすぐに、メールのチェックや、今日のタスクを整理。

最近導入された業務用スマートフォンを有効活用しています。





国際部
国際グループ

言語科学部卒

※OECD保険・私的年金委員会
(IPPC)のレセプションにて
※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

海外の保険市場や社会保障制度等に関する調査業務について、海外での研究経験を生かし、生命保険業界の方々への情報提供に貢献できたらと思い、入社しました。

一 現在の担当業務

保険事業の健全な発展に向けて、保険監督当局の国際機関である保険監督者国際機構 (IAIS)が国際的な保険の規制を策定する際に、国内の生命保険会社の意見を集約・発信しています。

また、当会は世界各地の保険協会が加盟する国際保険協会連盟(GFIA)にも参画しており、各国の保険協会と情報交換を行いながら、GFIAの枠組みを通じてグローバルレベルでの保険業界の意見発信にも取り組んでいます。

さらに、海外の保険業界関係者の方々等を対象とした日本の生命保険に関する講義の実施や、当会ウェブサイトの英語版の充実など、一般向けを含めた情報提供にも力を入れ、国際社会における生命保険の理解促進に努めています。

一 仕事のやりがい

日本の生命保険業界を代表して、さまざまな国際会議に出席するという貴重な機会を得ており、その重責を感じると同時に、やりがいも感じています。

GFIAの総会では、全加盟協会が一堂に会し、各国の保険協会の方々との意見交換を行うことができます。また、経済協力開発機構(OECD)など世界的なシンクタンクが主催する保険関連の会議は、グローバルな最新動向に直接触れる貴重な機会となっています。こうした国際会議では、ネットワーキングイベントが併催されることも多く、歓談を通じて各国の関係者との関係を深めることができます。

保険業界のプレゼンス向上に向けて意欲的に活動する一方で、夏にはしっかりとバカンスを楽しんでいる姿を目の当たりにし、ワークライフバランスやキャリアの充実についても良い刺激を受けています。

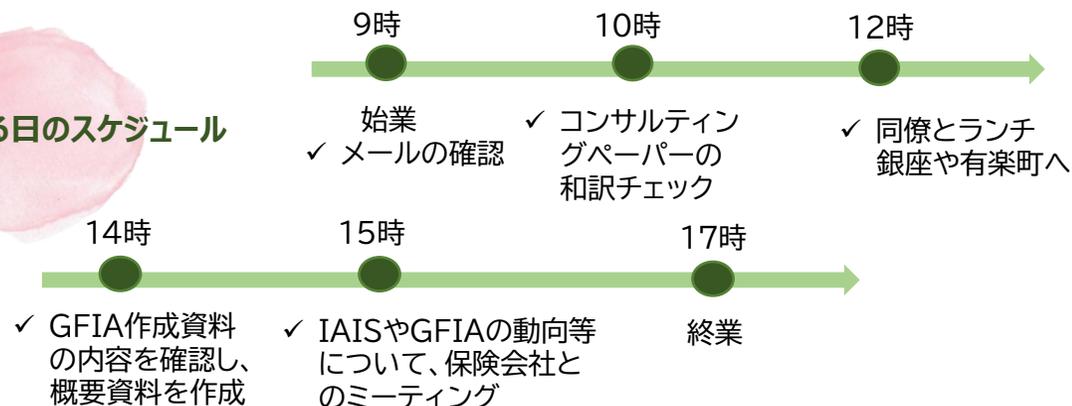
一 学生の皆さんへの応援メッセージ

外国語の習得がますます重要になっている今、個人的に心に残っている、留学先の大学院の指導教官の言葉を贈りたいと思います。「新しい言語を習得することは、新たな思考方法を身につけることだ。」外国語の習得は、物事の捉え方や思考力を広げるトレーニングにもなると思って、ぜひ前向きにがんばってください。

また、過去の自分に向けたメッセージにもなりますが、「やってみようかな」と思うことがあったら、多少の迷いがあっても直感を信じて果敢にチャレンジしてみてください。

「やらない後悔よりやる後悔」と言うように、やらなかったことは、忘れたつもりでいても、ふとした瞬間に何度でも蘇ってきます。思うような結果が得られなかったとしても、真剣に取り組んだことは、振返ったときに必ず糧になっているはずですよ。

ある日のスケジュール





調査部
調査研究グループ

法学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

公共の利益に関わる職業に就きたいと思い、就職活動を進めていました。生命保険業界は医療や年金等の社会保障制度を補完する業界であり、その生命保険業界を支える生命保険協会は、まさに自分の志望理由に合致したものだと考えたからです。

一 現在の担当業務

国内外の生命保険に関する法制・税制や社会保障制度、日本の生命保険事業の成長につなげるための課題に関する調査を行っており、私は生命保険会社に対する各国法規制の動向調査の取りまとめのほか、各種調査のイギリスやEU部分などを担当しています。

各国の調査結果を並べて、日本とどの点で異なるか、どのような目的や背景があるのか、日本が参考にすべき点はどこか、等を考えて伝えるやりがいのある仕事です。

一 仕事のやりがい

「今まで知らなかったことを知る」こと自体が人間としての根源的な喜びではあると思いますが、当会の仕事として調査を行う場合にはこれに加えて、調査が日本の生命保険事業の発展、ひいては国民生活全体の向上につながることを常に意識することができます。

さらに、仕事としてチームを組んで調査を行いますので、皆の専門知識やスキルを集約し、自分独りでは手の届かない調査成果を作り上げることができます。報告書は形に残るものであり、思わぬところで「引用させてもらいました」と言われた時の喜びはひとしおです。

ベルギーにある国際保険協会連盟(GFIA)事務局に2年間出向し、文化や背景事情の異なる各国保険協会の意見を調整しつつ報告書を取りまとめたことも、良い経験になっています。

ビール大国ベルギー(Duvelは本当に美味しい!)で、夕方から職場近くの広場で同僚とビール片手に議論するのも一興です。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

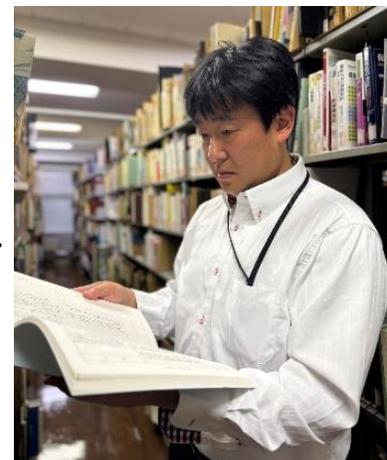
「仕事は収入を得るための手段」という考え方があり、私もその考え方に反対ではありません。そのうえで、「同じように収入を得るなら、『他の人や世の中のためになることをやっている』と思える仕事を選びたい」とも考えています。

現在そして将来の少子高齢化時代に社会保障制度をどのように維持すればよいか、民間セクターとして社会保障制度を補完する生命保険業界には何ができるか、そのためにどのような制度を構築すればよいか、そのような制度はどのようにすれば実現できるのか。

青臭い話に聞こえると思いますが、一緒に考えてみませんか。

ある日のワンショット

日本の金融庁や厚生労働省のプレスリリース・業界紙、イギリスやEUの当局リリースや業界紙など、情報収集が欠かせません。





共同システム室
共同システムグループ

理工学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

生保業界全体に影響を与える仕事に携われる点に魅力を感じました。また、業界の窓口として、政府機関や関連団体など多様なステークホルダーと連携しながら、広い視野で業界全体の発展に貢献できる環境に強く惹かれました。

一 現在の担当業務

共同システム室では、生保業界共通システムの安定的な運用を継続するために、生命保険各社からの照会対応や障害対応、システム開発などを行っており、利用者が円滑に業務を遂行できるよう支援しています。加えて、業界共通システムだけではなく、協会内の他部署が管轄しているシステムのサポートも行っています。

政府が推進するサイバーセキュリティ関連の取り組みにおいては、生命保険分野の窓口として、生命保険各社との調整や演習への参加などを行っています。

一 仕事のやりがい

業界共通システムは、その歴史の長さや規模の大きさから、生命保険各社からの安定運用に対する期待が非常に高いシステムです。そうした中で、生命保険各社の業務部門やシステム部門など、さまざまな関係者の業務を支えるシステムの運営に携われることは、他にはない大きなやりがいを感じるポイントです。

また、政府によるサイバーセキュリティ関連の取り組み(法令整備や演習の実施など)を踏まえ、生保業界全体のために「業界団体」として何が出来るかを検討し、実施できるのも、この仕事ならではの魅力です。

加えて、金融分野をはじめ、他の重要インフラ分野の方々と交流する機会もあり、業界の枠を超えた新たな発見や出会いがある点も、大きなやりがいの一つです。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

当会は比較的少人数の組織ではありますが、生命保険各社に加え、政府機関や他業界の方々とも幅広く連携を取りながら仕事を進めています。

そのため、一人ひとりの意見や行動が業界に与える影響も大きく、責任とやりがいを感じながら働くことができます。業界全体の発展に貢献したい、様々な立場の方々と協力しながら物事を動かしていきたいとの想いをお持ちの方には、是非当会を志望いただきたいと思います。

現時点でシステムに苦手意識がある方でも、興味や関心を持っていただけたら嬉しいです。皆さんと一緒に働けることを心よりお待ちしております。

ある日のワンショット

他部署とのミーティング中。
他部署が抱えるシステムに関する課題をヒアリングし、サポートするプロジェクトを担当しています。





生命保険相談室
相談グループ

政治経済学部卒

※取材当時

一 生命保険協会を選んだ理由

個社の利益にとわられない広い視野で、純粋に、より良い生命保険業界の在り方を目指した働きが出来ることに魅力を感じました。

また、勤務地が一か所に限定されており、ライフプランを立てやすい条件だったことも入社理由の一つです。同世代が、転勤命令で退職を余儀なくされたり、進退に悩む中、そのような悩みと無縁でいられる環境には大変満足しています。

一 現在の担当業務

ご親族が、死亡もしくは認知判断能力が低下した場合、または、災害時に死亡もしくは行方不明になった場合に、本人が契約者または被保険者となっている生命保険契約の有無について、当会がまとめて全生命保険会社に照会する「生命保険契約照会制度」(※)の運営を行っています。 (※)<https://www.seiho.or.jp/contact/inquiry/>

一 仕事のやりがい

私が運営する「生命保険契約照会制度」は、ご利用者様や消費者団体、メディアからの評価が高く、感謝や激励の言葉をいただくことが大きなやりがいとなっています。

当制度は、元々、東日本大震災で死亡もしくは行方不明になった方の生命保険契約の有無を調査するために発足したものですが、その後、災害時以外の平時にも利用可能とし、対象者を大幅に拡大した現在の制度に生まれ変わりました。これは、生保業界が、消費者利益に立った目線で、社会のニーズに応えた結果と自負しています。

当制度が開始して4年間で、2万人以上の方にご利用いただきました。この数の分だけお役に立てたと思うと、感慨深いものがあります。

一 学生の皆さんへの応援メッセージ

社会人になり振り返ってみると、学生時代は、なんと可能性が無限大で、色々な機会や出会いに溢れていたことかと思います。今なら、自分の努力と、多少の運次第で、何にでもなれますし、何かをするのに遅いと感じることはまずありません。

皆さんには、ぜひ、その貴重な時期に、「自分が何をしたいか」「どんな人生を歩みたいのか」を掘り下げて、興味のあるものには臆せず挑戦してほしいです。

その結果、生命保険協会に興味を持っていただき、生保業界の発展に向けて一緒に尽力できるのであれば、とても嬉しく思います。

ある日のワンショット

「生命保険契約照会制度」申請手続きの効率化に向けて、部内ミーティング中。最近は在宅勤務制度を活用しており、オンライン会議の機会も増えました。

